

顔面の強いリバウンドを経て 1 年後に通常生活へ戻った青年期アトピーの経過 (20 歳 男性)

症例 ID：001-20-NHr | 記録日：不明

1. 診断・治療前経過

14 歳頃にアトピーと診断され、顔面症状に対して約 5 年間ステロイド外用を続けました。一時的に軽減しては再燃する状態が続きました。

19 歳頃に松本医院を受診し、ステロイドを中止して治療を開始しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	14 歳頃から顔面症状にステロイド外用薬を使用しました。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	約 5 年間です。
中止時期	19 歳頃の松本医院受診時です。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
14～19 歳頃	外用継続	顔面症状にステロイドを使用し、軽減と再燃を繰り返しました。
19 歳頃	治療開始	ステロイドを中止し、漢方治療を開始しました。
治療初期	リバウンド	顔が赤く腫れ、大量の浸出液と掻き傷が出ました。
開始 2 か月頃	ピーク	顔面症状が最も強く、家族も治療継続に不安を感じました。
開始 5 か月頃	回復傾向	赤みが減り、顔の表情を作りやすくなりました。
開始 1 年頃	経過後	外見上アトピーと分かりにくくなり、通常の生活へ戻りました。
その後	通院終了	症状が落ち着き、通院しなくなりました。

4. ピーク時期

ピークは、治療開始 2 か月頃に顔が赤く腫れ、大量の浸出液と掻き傷が続いた時期です。

5. 困りごと

- 顔面の浸出液と腫れにより外出を避け、家にこもる時期がありました。
- 家族が治療継続に不安を感じ、説明と支援が必要でした。

6. 経過のまとめ

治療開始 5 か月頃から顔の赤みが軽減し、1 年頃には見た目アトピーと分かりにくくなりました。
通常の生活へ戻り、その後は症状のために通院する必要がなくなりました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。